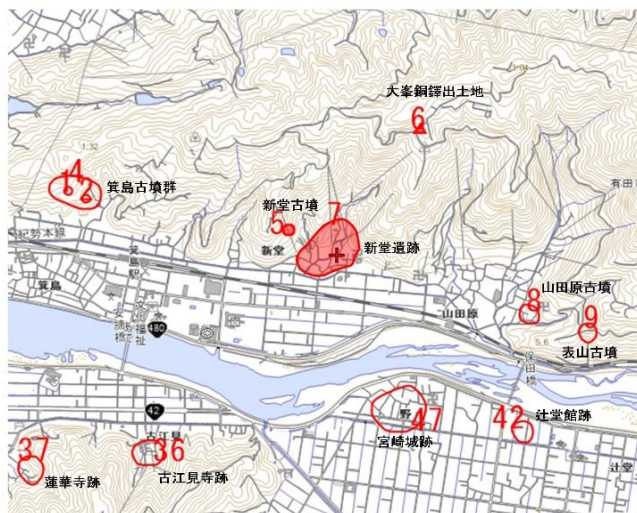


# 一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う 新堂遺跡 現地公開資料

2022年3月24・25日

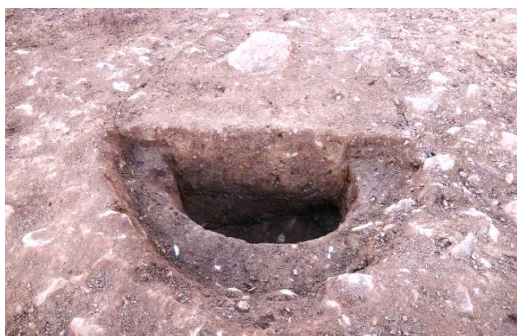
新堂遺跡は有田市新堂に所在し、有田川河口近くの山裾に展開する遺跡で、弥生時代の土器が出土することで知られていました。

今回の調査では、平安時代から鎌倉時代の人々が遺した柱穴や土坑（柱穴より大きい穴）・溝状遺構、江戸時代の桶を埋めた穴などが見つかりました。弥生時代・古墳時代の土器も出土しており、弥生時代以降、人々が生活していたことが明らかになりました。弥生土器は近くから出土した大峯銅鐸（新堂銅鐸）と同じ時期のもので、関連が注目されます。また、新堂古墳を造った人々が、周辺で生活を営んでいたことも分かりました。



新堂遺跡の位置（赤く塗った範囲）

（出典：和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図）



平安時代の土坑（東から）



出土した土器（瓦器碗・皿）



調査区全景（上空から）